

2025 年度 授業コード: 12106305

授業科目	＊専門演習Ⅰ（西原）					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	西原 真弓						
授業概要	「専門演習Ⅰ」は半期(15 週) 完結の科目であるが、後学期開講の「専門演習Ⅱ」に直結した科目である。このため、同一ゼミで受講することになっている。この 1 年間での専門的な学びを基盤として、4 年次の卒論執筆に取り組むことになる。すでに授業内容の概略が事前(2 年次の 12 月)に提示され、ゼミ受講者が決定しているため、2 週目以降の詳細は、各担当者が計画している内容でそれぞれの学びを深めていく。各ゼミでの学びは、英語学科 DP の 9 項目に示された力をつけることを目標としている。 1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。 4. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。 6. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 7. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。 8. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 9. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。						
授業形態	対面授業				授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養・幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 4. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 5. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。						
理想的レベル	1. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。 2. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。 3. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 4. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験							
小テスト							
レポート			30				
発表（口頭、プレゼンテーション）			50				
レポート外の提出物							

